

笠岡労働基準監督署管内の労働災害が増加しています！

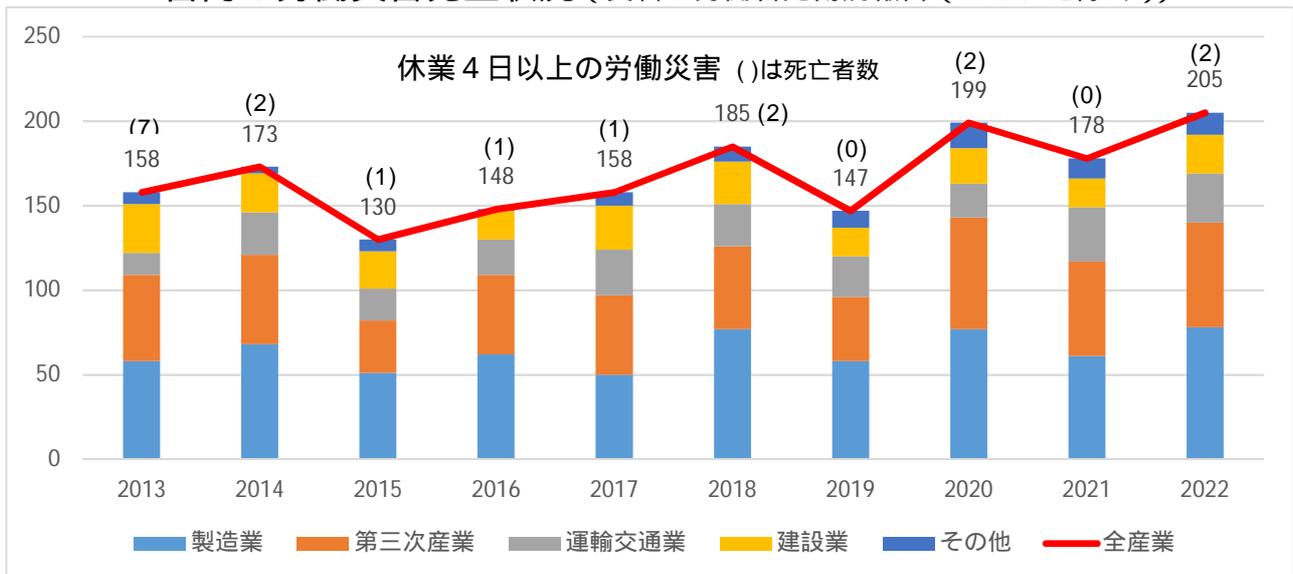
労働災害が発生した場合の平均休業見込み日数は37日（2018～2022年）となっており、被災者ご本人だけでなく、ご家族や職場の仲間にも多大な影響を及ぼします。

安全は「誰かがやってくれる」ものではなく「自分たちができることを積み重ねて作っていく」ものではないでしょうか。

朝出勤し、夜無事に帰宅する、当たり前の日常を守るのは、皆様一人ひとりなのです。

事業者のリーダーシップのもと、労働者一人ひとりが意識して労働災害防止に取り組ましましょう。（具体的な取組は裏面をご覧ください。）

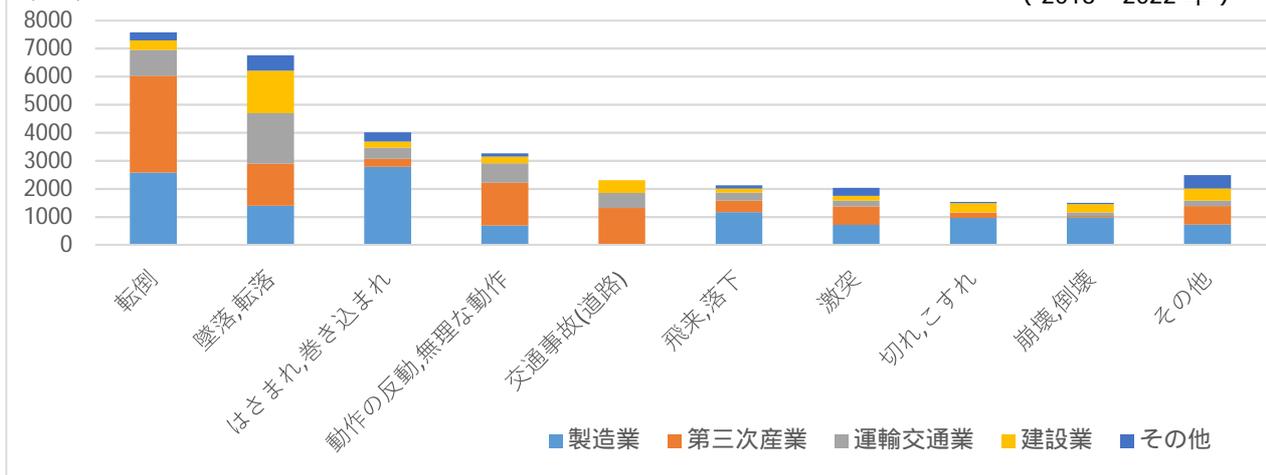
管内の労働災害発生状況（資料：労働者死傷病報告（コロナを除く））



休業見込み日数
(積算)

事故の型 × 休業見込み日数(積算) × 業種

(2018～2022年)



管内の労働災害の特徴（2018～2022年）

特徴1 転倒による休業が最も多い（特に第三次産業、製造業）。次に墜落, 転落（運輸交通業、その他全産業）、はさまれ, 巻き込まれ（製造業）、動作の反動, 無理な動作（第三次産業）

特徴2 被災者の約半数が50歳以上で、被災者に占める割合が増加している

人口減少、高齢化の進展により、業種を問わず、被災者の高齢化、転倒災害（行動災害）の増加傾向は強まっていくと考えられます。

こうした変化に対応しつつ労働災害防止対策を講じていきましょう。

労働者の生命と健康はかけがえのないものであり、 会社の財産です！

みなさまに取組んでいただきたい事項

労働災害防止への意識付け

各事業場における労働災害の現状や課題を共有し、リスクを可視化するなど、事業者、労働者一人ひとりの労働災害防止への意識を高めてください。

安全衛生教育の充実

労働災害防止に効果的な安全衛生教育を実施してください。安全措置が講じられた機械・設備でも、作業者がその取扱いを誤れば、はさまれ、巻き込まれ等の災害に結びつくおそれが十分あるため、作業者に対する安全衛生教育は重要です。

職場のあんぜんサイト 各種教材・ツール

検索

墜落、転落災害の防止

階段や開口部などからの墜落、トラックからの墜落のほか、脚立やはしごなどからの墜落も多く発生しています。脚立・はしごの作業前にチェックリストで点検して使用しましょう。

はしごを使う前に リーフレット

検索

転倒災害の防止

50歳以上の労働者が多く被災しています。転倒しやすい場所が無い職場の状況を確認し、4S、ハード面・ソフト面の対策を検討、実施してください。（参考：リーフレット「労働者の転倒災害（業務中の転倒による重傷）を防止しましょう」）



滑り



つまづき



踏み外し



転びの予防
体力チェック



職場における転倒・腰痛
予防対策動画（小売業、
社会福祉施設、飲食店）

高齢労働者への配慮

高齢労働者の労働災害が増加していることから、「高齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン」（エイジフレンドリーガイドライン）を参考に働く高齢者の特性に配慮したエイジフレンドリーな職場を目指しましょう。

エイジフレンドリー

検索

リスクアセスメントの推進

職場では「高所作業」、「機械設備を使用する作業」、「介助作業」などの様々な作業が行われています。普段行っている作業のリスク（危険性又は有害性）を確認し、リスクの低減に向けて取り組むことは、企業価値の向上、人材確保の観点からもプラスとなります。

リスクアセスメントの実施支援システム

検索